

報道関係者各位

2020年11月19日  
国立成育医療研究センター

**全国約10万人、初めての全国レベルでの大規模追跡調査で  
乳幼児のアレルギー症状・疾患の実態や推移が明らかに**

1歳時即時型食物アレルギー7.6%と多くの子どもに認められました  
鶏卵アレルギー5.3%、牛乳アレルギー2.1%、小麦アレルギー0.5%でした  
近年増加報告ある消化管アレルギーは1.4%、原因食物は鶏卵が最も多い

**【概要】**

子どもの健康と環境に関する全国調査(以下、エコチル調査)のメディカルサポートセンターである、国立成育医療研究センター(住所:世田谷区大蔵2-10-1 理事長:五十嵐隆)の大矢幸弘、山本貴和子らの研究チームは、全国約10万人のデータを用いて妊娠中から3歳児までを追跡調査し、アレルギー疾患・症状の実態や推移、アレルギーマーチ(アレルギー疾患・症状の併存)を明らかにしました。

この論文は、世界アレルギー機構の公式英文国際雑誌『World Allergy Organization Journal』に掲載されました。

**【研究背景】**

アレルギー疾患の増加が問題になっていますが、日本での3歳以下の子どものアレルギー疾患有病率の経時的推移や実態は、全国レベルでの大規模な調査がされていませんでした。

**【研究内容】**

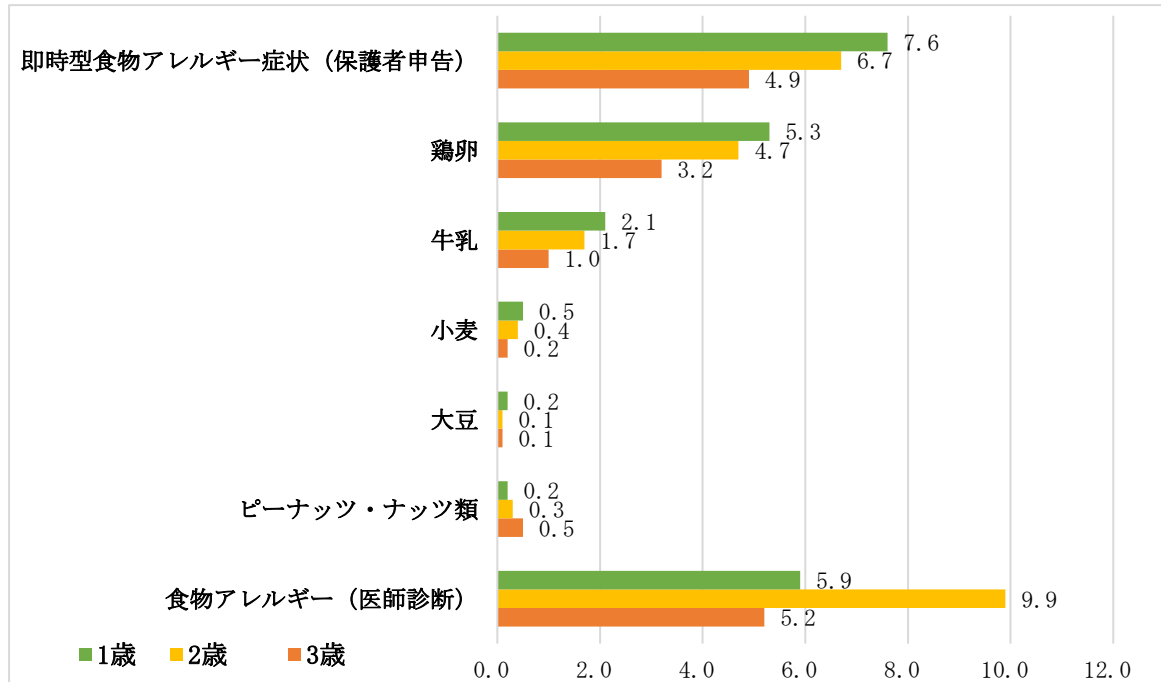
2011年1月～2014年3月にエコチル調査にリクルートした妊婦から出生した子どもで、多胎出産や調査参加を途中で中止した方などを除いた92,945名の子どもを3歳まで追跡しました。母親の妊娠中から3歳まで定期的に実施した自記式のアンケート調査のデータを使って、アレルギー疾患・症状やアレルギーマーチの推移について疫学的に分析しました。

**【研究結果】**

**<即時型食物アレルギー>**

- ・ 即時型食物アレルギー(原因となる食物を食べてすぐに症状が現れる)は、保護者の回答では、1歳時7.6%、2歳時6.7%、3歳時4.9%でした。
- ・ 最も多いのが鶏卵アレルギー、次いで、牛乳、小麦アレルギーでした。
- ・ 生後6か月までに鶏卵早期摂取開始したのは6.2%のみでした。(論文TableS2)

【図1】食物アレルギー



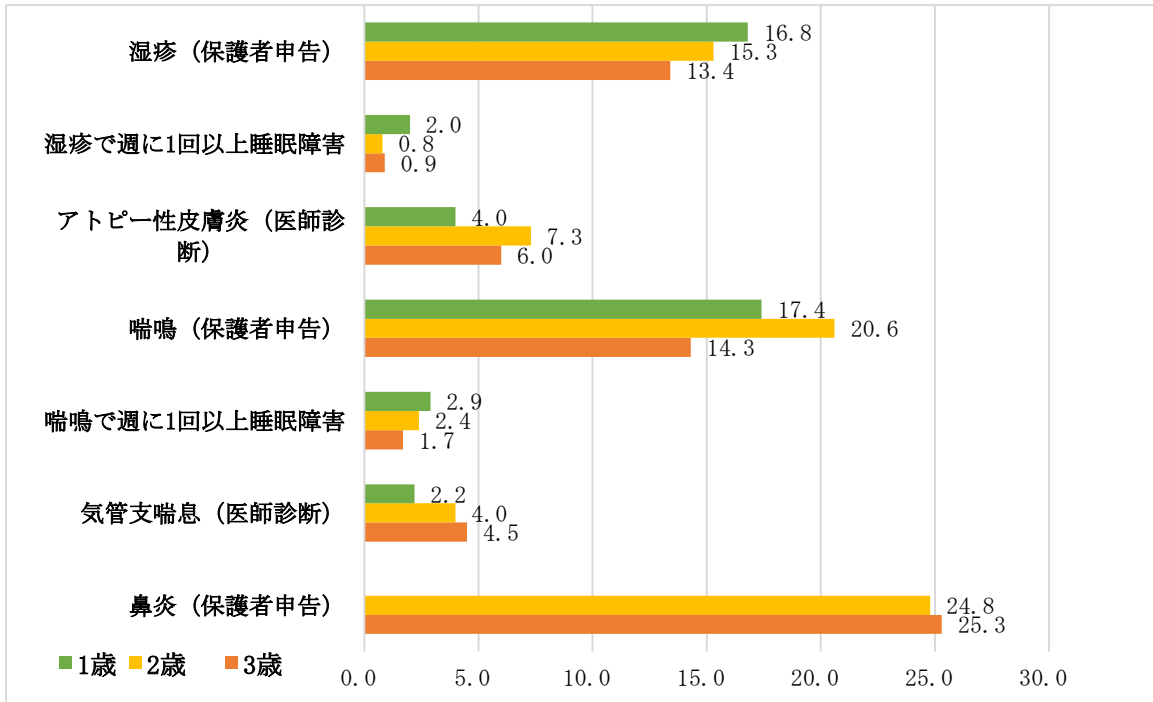
<近年増加の消化管アレルギーについて>

- ・ 1歳半までに消化管アレルギーは1.4%の子どもで認められました。(論文 Table2)
- ・ 原因食物は鶏卵、牛乳、大豆の順番で多くなっていました。(論文 Table2)

<湿疹、アトピー性皮膚炎、喘息、鼻炎などの経時的変化>

- ・ 16.8%の保護者は1歳時に湿疹ありと回答しましたが、4.0%のみが医師にアトピー性皮膚炎と診断されました。本当はアトピー性皮膚炎があるはずが、過小診断されている可能性があります。
- ・ 喘息症状の喘鳴により週に1回以上の睡眠障害がある方は年齢により1.7~2.9%に認められました。
- ・ 2歳以上になると約1/4以上の子どもに感冒(風邪)ではない鼻炎症状がありました。

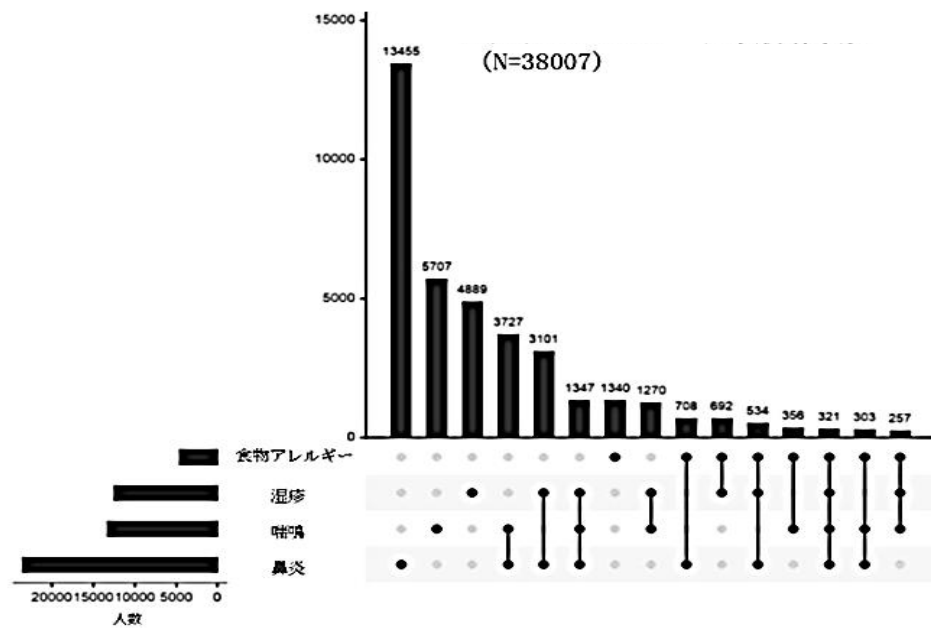
【図2】 湿疹、アトピー性皮膚炎、喘息、鼻炎など



＜アレルギー症状の併存、アレルギーマーチについて＞

3歳時のアレルギー症状の併存状況では様々なパターンが認められました。

【図3】 3歳時のアレルギー症状併存状況



論文では、1歳、2歳、3歳の年齢ごとに異なる併存パターンを示しています。

### 【今後の展開】

今回初めて大規模かつ全国レベルで 3 歳までの子どものアレルギー症状・疾患の実態や推移が明らかになりました。今後アレルギー疾患を減らしていくために予防、早期発見、早期介入していく必要があります。

離乳食での鶏卵摂取には更なる啓発や実態調査が必要であると考えられます。また、保護者の報告と医師の診断に乖離があったアトピー性皮膚炎に関して、過小診断されている可能性があり、正しい診断基準に基づいて医師が診断することが必要であると考えます。また、アレルギー症状は様々なパターンで併存しており、複数のアレルギー疾患を持つ子どももたくさんいます。更に、年齢ごとにパターンが異なることから、個人個人の症状を詳細かつ的確に把握し、適切に処置することが求められます。

### 【発表論文情報】

著者：山本貴和子<sup>1) 2)</sup>、朴慶純<sup>3)</sup>、齋藤麻耶子<sup>1) 2)</sup>、佐藤未織<sup>1) 2)</sup>、羊利敏<sup>1) 2)</sup>、苛原誠<sup>1) 2)</sup>  
目澤秀俊<sup>1)</sup>、佐々木八十子<sup>1)</sup>、西里美奈保<sup>1)</sup>、石塚一枝<sup>1)</sup>、大矢幸弘<sup>1) 2)</sup>

所属：<sup>1)</sup>国立成育医療研究センター エコチル調査メディカルサポートセンター

<sup>2)</sup>国立成育医療研究センター アレルギーセンター

<sup>3)</sup>国立成育医療研究センター 臨床研究センター

題名：Allergy and Immunology in young children of Japan: The JECS cohort

掲載誌：World Allergy Organization Journal

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1939455120303823>

### 【エコチル調査について】

エコチル調査 (<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/>) は、日本中で 10 万組の子どもたちとその両親が参加する大規模な疫学調査で、2011 年より開始しました。赤ちゃんがお母さんのおなかにいる時から 13 歳になるまで、定期的に健康状態を確認し、環境中の化学物質や生活習慣などが子どもたちの成長・発達に与える影響を解明していきます。

### 【問い合わせ先】

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

企画戦略局 広報企画室 近藤・村上

電話：03-3416-0181(代表) E-mail: [koho@ncchd.go.jp](mailto:koho@ncchd.go.jp)